

## H23 年度科学・技術関係予算概算要求 個別施策ヒアリング

【施策番号 27176：バイオ技術活用型二酸化炭素大規模固定化技術開発（経済産業省）】

1 日時：平成 22 年 9 月 28 日 : 16:20 ~ 16:35

2 場所：中央合同庁舎 4 号館 2 階 第 3 特別会議室

3 聴取者：相澤議員、本庶議員、奥村議員、今榮議員

外部専門家 7 名（うち若手 1 名）

4 説明者：経済産業省 製造産業局 紙業生活文化用品課 坂本 敏幸 課長他

5 施策概要

遺伝子情報を活用した優秀品種（高セルロース樹木など）の選抜技術に係る研究開発を実施し、効率的・効果的な樹木生長による CO<sub>2</sub> 固定やバイオエタノール原料確保を実現することにより、植林事業を通じた地球温暖化防止、化石エネルギー消費量削減及び自然環境保護を、より効果的に実現することを目標とする。

6 質疑応答模様

【外部専門家】

具体的にどこで研究をおこなっているのか？

【経済産業省】

基本的には現在王子製紙が日本で行っている。一部王子製紙の研究所があるオーストラリアでおこなっている。

【外部専門家】

将来は確立した技術を海外で利用する予定か？

【経済産業省】

海外での利用も視野に入れている。

海外についてはオーストラリアとラオスで展開しようと計画している。

【外部専門家】

ユーカリを植林する場合は地下水系についての考慮（地下水蒸発による塩害発生、及びユーカリ連作による土壌疲弊などへの対策）が必要であるが安全衛生評価について具体的に何をしているか？

【経済産業省】

現在植林が進んでいるところ（オーストラリア）では既に適切に行っている。

ラオスは元々荒地なので、問題にはならないと考えている。

ユーカリについてはこれからも適正に評価していく予定。

【外部専門家】

生物多様性の観点についてもしっかりと考慮して欲しい。

【経済産業省】

了解している。

【外部専門家】

再来年終了時には具体的にはどのぐらいセルロースリッチになると考えているのか？

【経済産業省】

通常の1.5倍を考えている。

セルロース量が75%くらいのを既存の植物種から選び出す。

現状で21年度ベースでバイオマーカーで的中率が70%、これを90%迄高めることで選択の成功確率を高める。

【外部専門家】

リグニンが減るからくしゃくしゃ？長年育てられないのでは？

色々あって有望と考えられる。

【相澤議員】

来年度で事業が終了した後の展開はどう考えているか？

【経済産業省】

王子製紙の現地植林に活用する。

また、得られた知見について分析会社に今回の開発した技術を提供して、他の企業がすぐに利用できるようにする。分析会社との秘密保持契約などの整備をおこなっていく。

【相澤議員】

知財財産権の関係は？

【経済産業省】

現在は王子製紙が知的財産権を所有しており、オープンにすることを検討している。

【相澤議員】

該当する知的財産権の国際的価値は？

【経済産業省】

国際的価値は高いと考えている。

そのため、分析会社としては国内外双方を考えており、海外での展開も視野に入れている。

国内についても当然力を入れている。

【相澤議員】

国際的な類似特許は？

【経済産業省】

今のところ無い。

【外部専門家】

農林水産省や林野庁との連携を行なうことが大切ではないか？

【経済産業省】

国内については連携する必要があると考えている。しかし、現状国内林についてはおこなっていないため、今後検討する。

以上